

令和元年度在宅サービスセンター事業報告

在宅サービスセンターは、浴風会の基本理念の一つである「地域との協働と社会貢献」の実現に向けて、「通所介護事業」と「認知症対応型通所介護事業」及び地域高齢者に向けての「みんなの生き生き健康教室」「ももの木トレーニング」支援の各事業に取り組んだ。

「みんなの生き生き健康教室」「ももの木トレーニング」は、平成 27 年度開始以来、地域の高齢者の方々が熱心に通われている。

令和 2 年 2 月以降の新型コロナウイルス感染拡大において、通所介護事業が地域における在宅生活を支えるための重要なサービスであるとの観点から、出来る限り事業の継続を目指した。毎回ご利用者の乗車前に非接触型体温計にて検温を行うなど体調の把握を行い、適切な感染対策を実施した上で、サービス提供に努めた。一部営業自粛や休業を決めるデイサービス事業所もある中で、デイサービス事業の継続はご家族やケアマネジャーからも好意的な評価を受けた。しかしながら一方で不要不急な外出の自粛という国や行政の呼びかけもあり、ご利用者、ご家族の判断として利用の自粛も一定程度発生するに至った。

1 お客様の状況

(1) お客様の概況

(2 年 3 月 31 日現在)

事業区分	一般通所介護事業		地域密着型認知症対応型 通所介護事業	
	30 年度	元年度	30 年度	元年度
年 度 別				
定 員	40 名	40 名	12 名	12 名
年間延べお客様数	8,512 名	8,755 名	2,812 名	2,819 名
1 日平均お客様数	27.7 名	31.0 名	9.1 名	9.2 名
利 用 率	69.2%	71.5%	75.7%	79.5%
新規契約者数	44 名	28 名	14 名	13 名
契約終了者数	38 名	32 名	19 名	15 名
年度末契約者数	107 名	98 名	29 名	28 名

※認知症対応型通所介護は、サービス提供時間延長分を換算。

(2) 介護度の状況

(2年3月31日現在)

事業区分	一般通所介護事業				地域密着型認知症対応型 通所介護事業			
	30年度		元年度		30年度		元年度	
月平均	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
要介護5	2	1.9	2	1.9	7	24.1	9	32.1
要介護4	6	5.6	5	4.9	5	17.2	2	7.1
要介護3	9	8.4	9	8.8	5	17.2	7	25.0
要介護2	22	20.6	25	24.3	6	20.7	3	10.7
要介護1	55	51.4	48	46.6	6	20.7	7	25.0
要支援2	3	2.8	3	2.9				
要支援1	10	9.3	11	10.6				
合計	107	100	103	100.0	29	100.0	28	100.0

2 施設運営の実施状況

1. 南陽園在宅サービスセンター

1 運営の基本方針

ア サービス計画に基づくサービス提供

アセスメントに基づいたひとり一人のニーズに応える通所介護計画、及び個別機能訓練計画を策定し、定期的なモニタリングを実施してサービスの提供に当たった。

サービスプログラムは、機能訓練の他唄やゲームなどのレクリエーション、紙細工などのアクティビティ、散歩等がある。

イ 居宅での生活継続支援

ご家族ニーズに沿って毎日曜日、正月3が日を除いて営業し、実施日数は308日であった。

ウ 地域ケアマネジャーとの連携強化

担当ケアマネジャーや他のサービス事業所担当者が参加するサービス担当者会議に38回参加し、関係機関との連携を深めるように努めた。

また、浴風会介護保険事業主催による地域ケアマネジャーとの交流研修会を開催し、連携の強化を図った。

エ 積極的な情報公開

ホームページを随時更新し、情報公開を行った。

2 各サービスについて

(1) デイサービス（認知症対応型通所介護事業）

- ①年間平均利用率は 79.5%（時間延長換算分を含む）だった。3月に新型コロナウイルスによる利用自粛の影響を受け、目標 80%をわずかに下回る結果となった。時間延長ご希望のお客様 11名に7時間のサービスを提供した。
- ② 新規契約数は 13件であり、令和2年3月末現在の契約者数は 28名である。なお、契約終了者は 15名で、内訳は施設入所 12名、死亡 2名、要支援変更 1名であった。
- ③ ご希望の高い入浴サービスについては、1日定員 6名に増員しており、それ以外でも可能な限りニーズに応え、実施した。
- ④ 個別機能訓練計画に基づき、歩行訓練、関節可動域訓練、体操などを実施した。また、新たにエアロバイクを導入し、脚力の強化に取り組んだ。
- ⑤ 実施行事

4月	お花見週間	12月	年忘れ会
7月	七夕会	1月	新年会（初詣）
8月	納涼会	2月	節分
9月	敬老会	随時	誕生祝

⑥ ボランティアの受け入れ

将棋ボランティア	23回
ギターボランティア	20回
利用者支援ボランティア	13回
演芸ボランティア（ハワイアンバンド）	10回
フルート演奏ボランティア	4回

⑦ 運営推進会議

10月23日(水)に、杉並区、地域包括支援センター職員、居宅介護支援事業所ケアマネジャー、地域住民代表、ご家族が参加する運営推進会議を開催した。なお、第二回はコロナウイルス感染拡大の影響により、書面で活動内容の報告を行なった。

⑧ 災害時対策（災害伝言ダイヤル）

N T T東日本が災害時、臨時開設する「災害伝言ダイヤル」を活用し、電話が繋がらない状況でも、ご家族の不安を軽減出来るよう、お客様の安否や送迎の変更などを伝言にて、ご家族に報告出来るようにしている。

(2) みんなの生き生き健康教室

高齢者用の筋力向上トレーニングマシンを使用した「みんなの生き生き健康教室」を独自事業として浴風会コミュニティホールにおいて、月曜日・木曜日の午後、5クール（1クール15回）を予定したが、コロナウイルス感染拡大の影響により4クールのみの実施となった。

参加者は、一期21名、二期22名、三期26名、四期24名の合計93名、延1,197名であった。

(3) 自主教室「ももの木トレーニング」支援

南陽園と共同して5台のトレーニングマシンを活用し、昨年度に引き続き南陽園機能訓練室を使用して毎週水曜日午後、月2回土曜日午後に「ももの木トレーニング」教室を実施した。開催回数は59回、参加者数は延1,433名であった。

(4) 社会貢献活動（法務省保護局から依頼）

近隣に居住される、保護観察中の方々（保護司付き添い）にボランティアの場を提供し、社会に貢献できるという意識や社会のルールを守る意識を育む活動に協力しており、令和元年度の参加は2件であった。

2. 第二南陽園在宅サービスセンター

1 運営の基本方針

ア サービス計画に基づくサービス提供

お客様の生活状況等についてスタッフ間で情報共有をはかり、居宅サービ

ス計画に基づき、自立支援の観点からサービス計画をたて、サービス提供に努めた。

イ 地域ケアマネジャーとの連携強化

在宅におけるケアマネジャー主催のサービス担当者会議へ参加し連携を図ると共に、お客様の日常生活の維持改善のために通所介護計画を作成し、アクティビティ活動、運動機能向上のための訓練などを実施した。

ウ 居宅での生活継続支援

日常生活動作に不安を感じられたお客様に対して、デイサービスとしても介護用品・福祉機器の利用などその改善策を提案し、ご家族の介護負担の軽減、居宅での生活継続につなげた。

エ サービスニーズの把握

サービス担当者会議や退院時カンファレンス等の機会を活用し、サービスニーズの把握に努めた。引き続き要望が多い入浴サービスの提供にも努めた。

オ 接遇マナーの向上

日々のスタッフミーティング、または定例の職員会議の際に、お客様ご家族からの要望や苦情について検討し、サービスマナーの向上につなげた。

カ サービス情報の積極的公開

ホームページや会誌を通じて日常活動状況の情報発信を行った。

キ 安定的経営の努力

毎月の利用率の集計、分析を行うことで通常規模型通所介護の基準である月上限 750 名を超えない範囲でのサービス提供を行い、昨年度は月 728 名であった。

法人内人事の再配置など支出の削減に努めたが、運行委託費の値上げなどもあり依然として厳しい経営環境にある。

2 各サービスについて

1) デイサービス（通所介護事業）

① 第二南陽園在宅サービスセンターでの事業実施日数は 308 日、年末年始を除く月曜日から土曜日まで実施した。令和元年度新規契約者は 28 名であった。

- ② 契約終了の方は 33 名おられ、令和 2 年 3 月 31 日現在の契約者数は 98 名となっている。なお、契約終了者の内訳は、長期欠席 18 名、他の通所介護への移行（地域密着型認知症対応型通所介護を含む）2 名、老人保健施設入所 3 名、特別養護老人ホーム入所 2 名、死亡 8 名であった。

利用者の一週間における平均利用契約回数は 2.0 回であった。

- ③ 自宅での入浴が困難な方や何らかの理由により在宅での入浴に不安のある方について入浴サービスを実施した。年 308 回実施し、前年度から 4.0% 上回る延べ 2,058 名の利用があった。
- ④ 軽度認知症と診断されている方であってもサービス提供を行っているが、大勢の中での活動が困難な方や、個別の支援が必要な方などについては地域密着型認知症対応型通所介護の利用をケアマネジャーに提案し、連携しながら円滑な移行に努めている。
- ⑤ 活動は、お客様の希望や体力測定の結果、計画書の目標に添って選択していただき、身体機能の低下が認められる箇所の維持向上を目的としたプログラムを実施した。
- ⑥ お客様に提供されるサービスの内容確認などを含め、担当ケアマネジャーや他のサービス事業所担当者が参加するサービス担当者会議に令和元年度 114 件参加し、関係機関の連携を深めるように努めた。

⑦ 実施行事

4 月	お花見会	12 月	年忘れ会
5 月	新茶の会	1 月	新年会
7 月	七夕会、納涼会	2 月	節分会
9 月	敬老週間	3 月	防災訓練
10 月	高井戸区民センター秋祭り	当日	誕生会

⑧ ボランティアの受け入れ

(1) 活動講師

絵手紙指導	3 名	12 回
俳句	3～4 名	5 回
生け花（フラワー）	2～3 名	10 回
陶芸	1 名	24 回

(2) 行事の援助

音楽ボランティア	延べ 227 名	84 回
レクリエーションボランティア	延べ 8 名	2 回
その他ボランティア	延べ 7 名	1 回

⑨ 職員研修参加状況

職員の質の向上を目的として、専門知識や技術の習得のため、施設内外の研修に参加するように努めた。

東社協センター部会(委員会を含む)			1 回
その他諸研修	10 回	延べ出席者数	20 名